

馬堀小学校教育環境整備地域説明会 会議録

1 日 時 令和5年(2023年)11月21日(火)18:00~20:00

2 場 所 大津コミュニティセンター 学習室4・5・6

3 参加者 4名

4 事務局等	教育総務部	部長	古谷 久乃
	教育指導課	課長	鈴木 史洋
	学校管理課	課長	二見 裕
	教育政策課	課長	飯田 達也
	教育政策課	主査	大堀 圭輔
	教育政策課	主任	高品 慎介
	教育政策課	担当者	松本 勇人

5 議事内容

○飯田教育政策課長(事務局)

定刻になりましたので、走水・馬堀地域の教育環境整備についての説明会をはじめます。

本日、説明会の進行をつとめます、横須賀市教育委員会教育総務部教育政策課長の飯田と申します。

よろしく申し上げます。

教育委員会事務局の職員を紹介します。

《 事務局職員紹介 》

なお、本日の説明会は、会議録を作成するため、録音をしたいと思いますので、ご了承ください。

それでは、お配りしました資料の2ページをご覧ください。ページ数については、資料の右下に記載しています。

まず、本日の説明会の趣旨について、説明します。

横須賀市教育委員会では、令和4年3月に策定した「横須賀市教育環境整備計画」に基づき、人口減少が進む本市において、学校規模の小規模化、施設の老朽化及び通学区域に関する課題等の解決に向けた検討を行い、市立小中学校の教育環境の整備を行うため、令和4年5月23日に田浦地域及び走水・馬堀地域における市立小中学校の教育環境整備の推進について、横須賀市立小中学校適正配置審議会へ諮問を行いました。

すでに新聞報道等によりご存知の方も多くいらっしゃると思いますが、令和5年10月31日に、横須賀市立小中学校適正配置審議会から教育委員会へ「走水小学校区を馬堀小学校区に編入する方が妥当である」と答申されました。

本日は、答申までの経緯や答申内容等について、皆さまへ説明し、ご意見等をいただくため、説明会を開催いたしました。

なお、具体的な方策につきましては、今後、教育委員会議による審議を経て決定されます。

本日ご参加いただきました皆さまにおかれましては、答申内容に関する事、これまでの教育環境整備の経緯、統合された場合の影響や懸念など、さまざまなご意見や疑問、ご不安をお持ちかと思っております。

まず、事務局より説明を行い、説明後、皆さまからのご質問やご意見をお伺いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、走水・馬堀地域の教育環境整備について、担当より説明します。

◀ 走水・馬堀地域教育環境整備について事務局から説明（資料） ▶

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、これより、質疑応答を行います。

答申内容に関する事、これまでの教育環境整備の経緯、統合された場合の影響や懸念など、なんでも結構です。

ご質問、ご意見のある方は挙手をお願いします。

○参加者

統合によって通学路が長くなる児童は、どの程度長くなるのでしょうか。

通学路が遠くなるということが心配であり、地域の協力やバス利用といった方策について、まだ具体化していないという部分が気になります。

○大堀教育政策課主査（事務局）

新たな通学距離については、走水の県営住宅の一番奥から計測すると、馬堀小学校まで3キロですので、最長で3キロです。

通学の安全確保については、地域別協議会や審議会において、スクールバスや京急バスの補助といったご意見をいただいておりますので、それらをベースに検討を進めたいと考えています。

○参加者

市内で、今現在バス通学をしている方への補助はありますか。
大楠地域ではバス通学をしている方もいると思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

現在でも、遠距離を通学している方がいます。

大楠地域においては、小学校で最長4キロ、中学校で4キロを超える地域もあり、その方々はバスで通学していますが、それに対する補助は、市では行っておりません。

○参加者

走水小学校区の児童が10名ほど、馬堀小学校に通っているというご説明があり、学区外の小学校へ通学するということはどこの小学校でも見受けられますが、学区外の学校へ行きたいという要求によってなされているのでしょうか。

また、走水地域の方々について、地域の団結力が強く、祭事等の件もあり、昨年の地域説明会では走水小学校を残してほしいという意見が多かったです。今回の地域説明会では、意見の変化がありましたか。現在もそのような意見は出ているのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

通学する学校の変更に関しては、指定変更制度という制度があります。既定の事由に該当する場合に変更できるというものであり、小規模が嫌だ、というだけで学校を変更できるものではありません。

事由としては、留守家庭で放課後の居場所がない児童対策のために学童クラブのある学校へ通う、上の子がすでに通っている学校へ下の子も通う、といった例があります。

走水地域におけるご意見については、地域の祭事や行事等、地域の拠点になっているということで、昨日の地域説明会においても、そういった部分を懸念しているというご意見がありました。

○参加者

11月25日にも説明会があります。昨日は走水小学校区、本日は馬堀小学校区、25日は両校が対象ということだと思いますが、説明内容は同じですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

11月25日土曜日の15時45分から、大津コミュニティセンターで両校を対象とした説明会を行い、説明の内容は同じです。

より多くの方に来ていただき、ご意見を伺うため、平日に2回、土日に1回という日程にしました。

それでもご都合が悪い方もいらっしゃると思いますので、ホームページ、メール、FAX等により随時ご意見を受け付けています。

○参加者

小学校の数は46校でよろしいですか。

○高品教育政策課主任（事務局）

そのとおりです。

○参加者

昨日の地域説明会で、走水小学校は地域の伝統行事等に児童も積極的に参加していただいております、地域の中心の一つである、という意見が出ました。これは、昨年の11月に町内会主催で行われた説明会の時と同じ熱量であり、統合は反対という意見でした。

小規模特別認定校により走水小学校を存続する、という案について、12学級から24学級という基準に該当させずに運用する方法もあると思いますが、いかがでしょうか。

教育委員会としては、学級数の基準が絶対的なものであるというように感じます。

○大堀教育政策課主査（事務局）

小規模特別認定校というのは小規模に特化した学校なので、12学級から24学級という基準とは別の考え方です。その上で地域別協議会において、小規模化の課題に対応できないという懸案が示されました。

また、小規模特別認定校として走水小学校を存続させると、走水に住んでいて小規模が嫌な方は、他の学校に指定変更の手続きをしなければならなくなるといった点も配慮する必要があります。

なお、小規模特別認定校は学区が横須賀市全域になります。走水小学校区から馬堀小学校区へ広げる、という現在の案に対しても通学の安全性に関する多くの課題を指摘されている中で、より広い範囲に通学区域を広げるということは、より通学に関する不安が増す、ということもありました。

○参加者

やってみないと分からないと思います。

10月28日に走水小学校で運動会がありました。参加した方から、素晴らしい運動会であったという声がありました。

PTAの主催で未就学児童のかけっこというプログラムを組んでいただき、1歳から3歳の未就学児が17名程度参加しました。そういった子どもたちがいるということも加味して、時間的猶予が欲しいです。

○参加者

方策案1から3が示されていますが、これが答申の内容ということですか。

教育委員会として、最終的にこの案に決めたいという意向はありますか。それとも、もう一段階設けて住民や保護者等の意見を伺いますか。

住民本位で、反対が多い場合、統廃合は難しいという判断をするのか、するのであれば誰が判断するのか、といったところを提示してほしいです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

方策案1から3というのは、走水・馬堀地域の代表の方々による地域別協議会を開催し、その中で、走水小学校と馬堀小学校の小規模に対する教育環境の方策をどうするか、というご意見をまとめたものです

そのご意見に基づいて、条例で設置している審議会において、全市的な視点で検討を行った結果が、今回の答申の内容です。

答申の内容は資料の28ページに記載のとおり方策案1であり、走水小学校区を馬堀小学校区に編入する方策が妥当である、という結論です。

答申というのは、教育委員会から審議会に諮問したものに対して、審議会がご意見をまとめて回答したものであり、審議会が条例で設置されていることを鑑みると、教育委員会としては重いものであると認識しており、答申に沿った方向で検討を進めることとなります。

最終的には、年明け以降に総合教育会議という、市長が出席する会議を開催し、市長と教育委員で協議を行った上で、教育委員で組織する教育委員会会議において、市長の意向も踏まえて決定されます。

○参加者

市長が出席するのは総合教育会議、その後に教育委員会会議があるということですが、時期はいつ頃ですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

年明け以降で想定しています。

○飯田教育政策課長（事務局）

地域別協議会や審議会の中で、走水の教育環境の良さや走水地域が素晴らしいというご意見や、走水小学校の自然豊かな教育環境を惜しむご意見を多くいただいております。

これらのご意見やお気持ちについては、教育委員会としてもごもっともだと思っています。

これまで、地域の方や走水小学校の教職員が、学校や地域を支えてきていただいたということに関しては、本当にありがたいことだと思っています

ただ、教育委員会の考えとしては学校の役割に関して、学力だけをクローズアップするのではなく、より多くの社会性や人間関係を築くことだと考えています。こういった学びを実現するためには、クラスの中でさまざまな意見交換をしたり、違う学級や学年の子どもたちが関わるのが重要になります。

子どもたちがそういった経験をできる環境を整えることが、教育委員会の責務です。教育委員会は答申を尊重しながら、子どものために何ができるのかということを考えていかなければいけません。

地域の方の気持ちは重々承知しておりますが、教育環境を整えることを尊重したいと考えております。

○参加者

答申は尊重されるものだということですが、年明け以降に開催される総合教育会議や教育委員会には、今回の地域説明会で新たに出た意見は反映されるのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

答申が出て以降の地域別協議会、地域説明会におけるご意見についても全てお伝えした上で審議します。

○参加者

走水小学校区の児童のうち、10名程度が馬堀小学校へ通っているという話でしたが、2か所あるトンネルについての安全性や、現状どのように登校しているのか、徒歩なのかバスなのか、バスの場合は交通費の補助はあるのかといったことを教えてください。

また、答申のとおり統廃合した際には、通学の安全や交通手段についてどのような対策があるのかを教えてください。

○大堀教育政策課主査（事務局）

現状、走水小学校区から馬堀小学校へ通っている方はバスを使っていますので、トンネルを歩くということはありません。

今後の対策については、審議会や地域別協議会においてスクールバスやバス代の補助といったご意見をいただいているので、そういった方向で検討しています。

○参加者

バスの本数が減っているので、自家用車で通学している家庭もあると聞いています。

また、帰りの時間がバスの時間と合わないときには、歩いて帰っている児童を見かけたことがある、という話を聞いたことがあります。その場合、歩道がない道があります。

○参加者

通学の安全確保がクリアできなければ、統合に動かないということによろしいですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

統合と同時に通学支援策が実施されなければならないと考えています。

○参加者

馬堀小学校の関係者は受け入れる側なので、関心が低いのは仕方がないのですが、もう少し出席者がいると良いと思いました。

馬堀地域の方のご意見もたくさん伺いたかったので、25日の地域説明会にはもっと多くの方が出席すると良いと思います。

○古谷教育総務部長（事務局）

今回の方策の目的は、走水小学校の小規模解消のみではなく、馬堀小学校についても今後児童数の減少が想定される中で、適切な教育環境を確保していくことでもあります。

仮に統合が決まった際には、あくまでも対等な統合だと考えています。答申では編入という表現になっていますが、それは学区を編入するという意味であり、子ども同士、学校同士は対等な統合となります。

仮に統合が決定した際は、スムーズに統合を進められるよう、保護者、子どもたち、教職員が不安のないような形で進められるよう、教育委員会と学校が全力を挙げてサポートしたいと思いますので、ご安心いただければと思います。

○参加者

最終的に教育委員会で決定されるということですが、そこまでに考えていただきたいことは教育面だけではなくて、災害の部分、通学の安全性等であり、通わせている保護者の不安は最後まで払拭されないとします。

教育委員会だけではなく横須賀市、神奈川県、国全体の問題として考えるのであれば、お話にならない方が参加して座っているのではなく、他の部署の方にも参加していただきたいと思います。その上で納得ができれば、仕方がないと結論付けるしかないと思いますが、このままの話の進め方であれば、納得できません。

資料の 29 ページから記載してある意見について、その裏にある思いを考えていただきたいです。

他の部署の方に参加していただき、馬堀地域の方にも意見を言っていて充実した地域説明会になって欲しいと思いますが、このままでは走水地域の方々は納得いかないまま進んでいってしまい悲しく思うので、そのところを考えていただきたいと思いました。

○参加者

子育てを担当する部署や定住促進を担当する部署にも参加していただきたいということです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

教育環境整備の検討ということなので教育委員会が説明しています。

地域説明会でいただいたご意見は全市的に関係部署にお伝えしており、まずは教育委員会が窓口になってお伺いしています。

仮に統合になった場合にはFM推進課が主体となり、まちづくりの観点、学校が果たしてきた機能といったものを踏まえて跡地利用を検討することになります。その際は、地域にとって必要な機能やこれまで学校が果たしてきた役割についてのご意見を伺いながら検討を進めていきます。

○参加者

統廃合をする前に、そういったところも審議していただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

懸案としては地域の衰退、定住促進という話であると思います。

定住促進の方策について、現在の横須賀市は居住者に補助金を出すような、いわゆるばらまきと呼ばれるような政策で近隣自治体と住民の取り合いを行うことは現実的ではないという考えから、観光、スポーツ、エンターテインメント等により集客を上げることで経済を活性化し、その税収によって教育や福祉等に還元することが人口増に繋がるという考え方をしています。これは学校の有無にかかわらず、そのような方針で市を活性化させていこうという考え方に基づいての施策なので、その点をご理解いただければと思います。

懸案についてはご意見をいただいて、担当部署に共有をしたいと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

走水小学校をどうしていくかという話は、仮に統合が決定した場合、決定後に考えていく話です。地域の方が心配されるように、セットで検討してほしいというお気持ちも理解できますが、決定していないものに対して具体的なこととお話することはできないということは、ご理解いただきたいと思います。

ただ、決定した後は一から検討を始めるのではなく、いただいているご意見等については既に多くの所管部署に共有しています。

○参加者

全国的に人口が減っているということで、横須賀市も増える見込みがないという状況では、今回の統合だけでなく、今後についても長期的な統合の計画があるのだと思います。

小学校区の地域活動の在り方にも関係すると思うので、そこは気になります。

小学校がなくなったら地域の活動はどうなるのか疑問です。

児童が減っていくことに応じて、適正規模の在り方も変わるのではないかと思います。小規模の課題については説明がありましたが、良さもあります。

今は1学級30人程度だと思いますが、1学級60人の頃から少人数学級が理想だという話がありました。その理想に近づいたと思ったら今度は少なすぎて統合という問題になり、難しいと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

地域の変化については、必要なことだと思います。

地域の人、子どもが少なくなり、地域活動を担っている方が高齢化しているという状況の中では、各地域において難しい部分が出てきていると思います。

小学校を中心に活動が行われているのであれば、小学校が合わさることによって地域が広がり、それによって活動に携わる方が増えるという、広域化という考え方もできます。

小規模については、良さもあるということは認識しています。ただ、走水小学校の各学年1桁、2年生が1人で複式学級になっている状況に対して、教育環境の観点からどうか、といった意見が地域からはあまりいただけていません。

教育委員会は、子どもたちのためにどのような教育環境が適切かという視点で考え、検討を行っており、そういった視点に基づいた答申をいただいたので、答申に沿って進めたいと考えています。

地域の皆さまが心配されるように、学校は地域の拠点でもあるという認識はありますが、学校というものは第一に子どもたちのための場所です。子どもたちのためにならない部分があるのであれば方策をとらなければなりません。その上で、その方策によって地域活動に懸念があるのであれば、それは方策がとられた後に対応していかなければならないことだと考えています。

○参加者

地域でも、小規模の課題は共有しています。

近隣の三校で連携し、共存共栄の道を議論すべきだという話が、地域別協議会でありました。柔軟な発想をして、例えば審議会でも話があったように、大学のように走水小学校と馬堀小学校で受けたい授業を選んで行き来するような方策もあると思っていますが、教育委員会はそういったことは考えていないと感じます。

跡地利用について、地域別協議会においては廃校舎を利用して宿泊施設ができないか、という意見がありました。

今後児童数が減少した場合、際限なく統廃合を繰り返すというのは、策がないと思います。馬堀小学校も人数が少なくなったら望洋小学校とまた統合するのでしょうか。高台まで坂を登って登校するのは大変です。

○大堀教育政策課主査（事務局）

資料の8，9ページをご覧ください。

学校規模については、11学級以下の小学校が教育環境整備の検討対象になっており、対象校については今後も検討を進めます。今回の前期計画は田浦地域、走水・馬堀地域が対象、後期計画は逸見・中央地域が対象となっています。

他にも小規模の学校や建物が老朽化している学校もあるので、順次検討を進めていかなければならないという状況です。

○参加者

通学距離が3キロというのは小学生には大変だと思いますし、スケジュールどおりに進めるのではなく、保護者や地域の方々の意見を聞く耳を持っていただきたいと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今回の検討の進め方をご説明します。

まず、教育委員会から審議会に諮問をして意見を伺いました。

審議会は全市的な検討を行うので、各地域の実情を把握するために、地域の代表から成る地域別協議会を複数回開催して、地域の意見、声を聞いて検討に入りました。

そういった経過を経て答申が出たということで、地域の意見、保護者の意見というものは数多く聞いています。

更に、審議会や地域別協議会の進捗状況については、保護者全員にお知らせをし、その

都度意見募集をしましたし、地域にも回覧して意見募集をしました。地域説明会も開催しているということで、ご意見を伺う場は数多く設けていますし、随時受け付けてもいます。

今後の検討においても、同じような形で進めていきたいと思っていますので、ご理解いただければと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

他にご意見等がありますか。

《 参加者からのご意見等なし 》

それでは、本日の地域説明会を終了いたします。

皆さま、貴重なご意見、ありがとうございました。

本日いただきましたご意見につきましては、事務局で取りまとめ、教育委員会議や市議会等にて報告いたします。

また、資料の35ページに事務局の問い合わせ先を記載しています。

ご質問やご意見等がございましたら、こちらまでお願いします。

最後になりますが、古谷教育総務部長より、皆さまへ挨拶申し上げます。

○古谷教育総務部長（事務局）

本日は平日夜のお忙しい時間にも関わらず、ご参加いただきましてありがとうございます。

現時点で統合が正式に決定されたわけではありませんが、教育委員会が諮問をして、審議会から出していただいた答申は、非常に重いものであると認識しています。

地域の方からは、統合を正式決定する前に、地域から意見を聞く場を設けるようにという声がありましたので、本日、このような場を設定させていただき、検討の背景や経緯を含めた説明をしました。

本日いただいたご意見については、全て持ち帰りまして、今後の教育委員会での審議に反映いたします。

立場や考え方によって、さまざまなご意見がある中で、一つの結論を出すということは本当に難しいことであると思いますが、教育委員会としては、現在と未来の子どもたちのより良い教育環境のためという視点を、皆さまと共有しながら、引き続き最良の方策を検討して参りたいと考えているところです。

本日はありがとうございました。

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、走水・馬堀地域の教育環境整備についての説明会は、終了とさせていただきます。

本日は、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

以上